

学校の教育目標:「主体的に考えて行動し(自主)、粘り強く学んで新しい価値を見だし(創造)、他者と協働しながらたくましく生きる(友愛)生徒の育成」

育成を目指す資質・能力:「自己表現力」「自己指導能力」

4段階評価
(A:十分達成 B:おおむね達成 C:課題がある D:大いに課題がある)

重点目標	担当	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	学習指導要領が目指す 資質・能力との関連	取 実 組 施 指 率 標 の	検証・改善【 3 】回目										学校関係者評価																																						
								取組指標に対する 取組状況の確認	達成指標に対する 達成状況の確認	達成指標・取組指標の 妥当性を検証	自己評価	改善方策																																												
													取組別	全体																																										
自分の言葉で豊かに表現する力の育成	研究主任	(A)定期テストにおいて、記述式問題の解答規準A～Bの教科平均13人(70%)以上	学校	(1)学力向上対策「本校の重点1・2・3」等に基づく授業実践	①授業者は、「情報の取り出し→思考・判断・表現」を意識した授業に取り組む。	○	○	100%	◇達成指標(A) ⇒教科平均14. 1人(82. 7%) 達成率108% 【2学期中間比＋5】	<table><tr><th colspan="2">正解者合計</th><th colspan="2">全体平均</th></tr><tr><th>教科</th><th>人数</th><th>%</th><th>人数</th><th>%</th></tr><tr><td>国語</td><td>12. 1</td><td>71. 2%</td><td rowspan="5">14. 1</td><td rowspan="5">82. 7%</td></tr><tr><td>社会</td><td>8. 3</td><td>48. 8%</td></tr><tr><td>数学</td><td>5. 5</td><td>32. 4%</td></tr><tr><td>理科</td><td>9. 3</td><td>54. 7%</td></tr><tr><td>英語</td><td>12. 2</td><td>71. 8%</td></tr><tr><td>音楽</td><td>17</td><td>100%</td></tr><tr><td>保健</td><td>17</td><td>100%</td></tr><tr><td>技家</td><td>16</td><td>94. 1%</td></tr><tr><td>家庭</td><td>17</td><td>100%</td></tr></table>				正解者合計		全体平均		教科	人数	%	人数	%	国語	12. 1	71. 2%	14. 1	82. 7%	社会	8. 3	48. 8%	数学	5. 5	32. 4%	理科	9. 3	54. 7%	英語	12. 2	71. 8%	音楽	17	100%	保健	17	100%	技家	16	94. 1%	家庭	17	100%	◇達成指標(A) 達成しているが、教科によって差があり、特に5教科はすべての教科で達成できていないため、継続する。 ◇達成指標(C) 妥当な指標のため、引き続き継続する。 ◆取組指標① 妥当な指標のため、引き続き継続する。 ◆取組指標② 実施率が下がっているので、取組を工夫する必要がある	B	◇達成指標(A) ・学年により数値に差が見られることから、詳細な課題分析を行い、学年に応じた対策が必要だと考えられる。校内研修で学年毎に弱点分析を行い、学年に応じた課題を明確にし、授業において課題克服の取組を継続する。 ◆取組指標②⑧ ・校内研修で引き続き研修を深め、取組を深化させる。		
					正解者合計		全体平均																																																	
					教科	人数	%	人数		%																																														
					国語	12. 1	71. 2%	14. 1		82. 7%																																														
					社会	8. 3	48. 8%																																																	
					数学	5. 5	32. 4%																																																	
					理科	9. 3	54. 7%																																																	
					英語	12. 2	71. 8%																																																	
					音楽	17	100%																																																	
					保健	17	100%																																																	
技家	16	94. 1%																																																						
家庭	17	100%																																																						
②授業者は、単元計画に基づき、発表させる前に考えを深める「必然性をもったペア・グループ活動」を行う。	○	○	86%	1学期末は100%であったが、2学期は中間、期末ともに14ポイント下がっている。																																																				
③授業者は、毎時間共通のフォーマットを用いて「振り返り」を行い、見取りを行う。			○	○	86%	2学期中間と比較して29ポイント上がっている。																																																		
④授業者は、プレートを用いて授業の流れを毎時間、生徒に示す。				○	71%	2学期中間と比較して14ポイント上がっている。																																																		
⑤5教科担当者は、朝学習や週末課題で弱点補強に取り組む。	○	○	100%	学年別に集計を行うと下の表のようになる。	<table><tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>全校</th></tr><tr><td>平均</td><td>4. 5</td><td>4. 9</td><td>3. 4</td><td>12. 7</td></tr><tr><td></td><td>74. 6%</td><td>54. 0%</td><td>84. 4%</td><td>66. 9%</td></tr></table>		1年	2年	3年	全校	平均	4. 5	4. 9	3. 4	12. 7		74. 6%	54. 0%	84. 4%	66. 9%	◆取組指標③～④ 2学期に比べ実施率が上がっているため、引き続き継続して実施する。	A	B																																	
	1年	2年	3年	全校																																																				
平均	4. 5	4. 9	3. 4	12. 7																																																				
	74. 6%	54. 0%	84. 4%	66. 9%																																																				
(2)「書く力」の育成	⑥国語科は、朝学習時に、ワークシートを活用した「コラム学習」を2週間に1回行う。(担任は、短学活で発表する場を設定する。)	○	○	100%	◇達成指標(B) 2, 3年生については1学期に実施・検証済み。1年生は12月に実施予定。	◆取組指標⑤～⑦ 妥当な指標のため、引き続き継続する。 ◆取組指標⑧ 約半数しか取り組めていないので、工夫が必要である。 ◆取組指標⑨～⑭ 妥当な指標のため、継続する。	A	B																																																
	(3)「表現する場」、「思いを伝える場」の保障	⑦授業者は、単元または1単位時間で、「表現する場」、各自の「思いを伝える場」を設定する。	○	○	100%	◇達成指標(C) ・「授業で積極的に表現できた」 ⇒肯定的回答19人(100%) 達成率100%(教員100%) 【2学期中間との人数比＋1人】					A	B																																												
		⑧授業者は「表現モデル」をもとに、生徒に教科の特性に応じた根拠ある表現について指導し、授業での見取りを行う。	○	○	57%	2学期中間からの項目であるが、約半数しか取り組めていない。																																																		
		⑨研究主任は、「鶴中スイッチ」の生徒(生徒会含む)・教師の振り返りを学期に1回以上行う。				○									100%	・「学級の中で自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができている。」 ⇒肯定的回答17人(89%) 達成率89%(教員86%) 【2学期中間との人数比－1人】	A	B																																						
(4)生徒と共につくる授業づくり	⑩研究主任は、生徒アンケート等の結果を踏まえた授業づくり集会を学期に1回以上開催する。				○	100%	・「授業が分かる。」 ⇒肯定的回答平均17人(89%) 達成率89% 【2学期中間との人数比±0人】	A	B																																															
	(5)地域への貢献	⑪学年担当者は、地域協育コーディネーターと連携し、郷土愛を育むための地域との交流学習等を学期に1回以上実施する。			○	○	76%					1月に「お魚料理教室」を実施する予定にしている。	A	B																																										
家庭		(6)家庭学習時間の確保	⑫家庭は、定期テスト前「家庭学習強化週間」において、「記録表」を用いて確認をする。				○	76%	1学期末に比べ17ポイント上がっている。	A	B																																													
	地域	(7)学校行事や学校公開に積極的な参加。	⑬保護者は、学校行事や学校公開に積極的に参加する。				○	100%	<table><tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>全校</th></tr><tr><td>積極的に表現</td><td>人数 6</td><td>9</td><td>4</td><td>19</td></tr><tr><td></td><td>割合 100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>思い考えを伝える</td><td>人数 6</td><td>7</td><td>4</td><td>17</td></tr><tr><td></td><td>割合 100%</td><td>78%</td><td>100%</td><td>89%</td></tr><tr><td>授業がわかる</td><td>人数 5. 7</td><td>7. 6</td><td>4</td><td>17. 3</td></tr><tr><td></td><td>割合 95%</td><td>84%</td><td>100%</td><td>91%</td></tr></table>					1年	2年	3年		全校	積極的に表現	人数 6	9	4	19		割合 100%	100%	100%	100%	思い考えを伝える	人数 6	7	4	17		割合 100%	78%	100%	89%	授業がわかる	人数 5. 7	7. 6	4	17. 3		割合 95%	84%	100%	91%	A	B						
		1年	2年	3年	全校																																																			
積極的に表現	人数 6	9	4	19																																																				
	割合 100%	100%	100%	100%																																																				
思い考えを伝える	人数 6	7	4	17																																																				
	割合 100%	78%	100%	89%																																																				
授業がわかる	人数 5. 7	7. 6	4	17. 3																																																				
	割合 95%	84%	100%	91%																																																				
(8)地域との交流を通した「郷土学」の推進	⑭地域の方は、地域協育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーとして学期に1回程度授業に参加する。	○	○	100%																																																				
目標を掲げ、夢を実現しようとする生徒の育成	教務主任	(D)以下のアンケート調査で全校生徒(19名)が肯定的回答 ◇「目標の実現のために努力した。」 ◇「学校が楽しい」 (E)HyperQU調査において「要支援群」の生徒0人	学校	(9)目標設定と振り返りの充実	⑮担任は、毎学期はじめと終わりに「未来をえがくキャリア・ノート」を活用した目標設定や振り返りを行う。		○	○	100%	◇達成指標(D) ・「目標の実現のために努力した。」 ⇒肯定的回答18人(95%) 達成率95% 【2学期中間比±0】	<table><tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>全校</th></tr><tr><td>人数</td><td>6</td><td>8</td><td>4</td><td>18</td></tr><tr><td>割合</td><td>100%</td><td>89%</td><td>100%</td><td>95%</td></tr></table>		1年	2年	3年	全校	人数	6	8	4	18	割合	100%	89%	100%	95%	◇達成指標(D) ・目標を達成することができなかったため、引き続き継続する。 ◆取組指標⑮ ・2学期からの項目であり、検証が完了していないため、継続する。	A	◆取組指標⑱ ・「いじめアンケート」「生活アンケート」の結果の交流を「学年→全体」で行う流れを確立する必要がある。 ◆取組指標⑲ ・「いじめアンケート」「生活アンケート」の結果を学年で共有した。11月は全校生徒を対象に担任による個人面談を実施することができた。今後も取組を継続する必要がある。																											
						1年	2年	3年	全校																																															
				人数	6	8	4	18																																																
				割合	100%	89%	100%	95%																																																
				⑯各担当者は、各種行事等において、校訓と運動した目的のもとで、取組を進める。				○	100%	・「学校が楽しい。」 ⇒肯定的回答17人(89%) 達成率89% 【2学期中間比＋5】	A	B																																												
				(10)互いのよさを見つけ認め合える集団づくり	⑰担任は、毎週月曜日に「人間関係づくりプログラム」(鶴中スマイルタイム)を全校縦割りで実施する。				○	○					100%	◇達成指標(E) ・2学期実施分は結果待ち	A	B																																						
					⑱教育相談コーディネーターは、「人間関係づくりプログラム」の毎月の計画を作成し、提案する。 ⑲各学年は、月に1回の「いじめアンケート」、学期に2回の「生活アンケート」の結果を全体連絡会で共有し、担任は個別面談を行う。					○	100%	<table><tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>全校</th></tr><tr><td>人数</td><td>6</td><td>7</td><td>4</td><td>17</td></tr><tr><td>割合</td><td>100%</td><td>78%</td><td>100%</td><td>89%</td></tr></table>		1年	2年	3年					全校	人数	6	7	4	17	割合	100%	78%	100%	89%	◆取組指標⑲ ・「いじめアンケート」「生活アンケート」の結果を学年で共有した。11月は全校生徒を対象に担任による個人面談を実施することができた。今後も取組を継続する必要がある。 ◆取組指標⑲～㉓ ・妥当な指標のため継続する。	A	B																						
					1年	2年	3年	全校																																																
				人数	6	7	4	17																																																
				割合	100%	78%	100%	89%																																																
家庭	(11)家庭学習時間の確保	⑳家庭は、定期テスト前「家庭学習強化週間」において、「記録表」を用いて確認をする。				○	○	76%	1学期末に比べ17ポイント上がっている。確認の声かけの効果が出ている。	A	B																																													
	地域	(12)生徒が設定した目標と振り返りの確認	㉑保護者は、学期はじめと終わりに「未来をえがくキャリア・ノート」を子どもと確認し、励ましのコメントを記入する。				○	○	65%					2学期始めの目標設定に対し、2学期末に「未来をえがくキャリアノート」を活用して振り返りを行う予定である。	A	B																																								
(13)地域との交流を通した「郷土学」の推進		㉒地域の方は、地域協育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーとして学期に1回程度授業に参加する。	○	○	100%																																																			
(14)福祉体験・交流学習	㉓地域の事業所は、学年担当者と連携し、福祉体験や交流学習を年間1回以上実施する。	○	○	100%																																																				

①ストレス診断「総合健康リスク」60以下
②時間外在校等時間 全教職員の月平均25時間以下
③「週3日5時間授業の取組により子どもと向き合う時間を確保できている」と肯定的に回答する職員の割合100%

①会議の縮減

②「年次有給休暇」の計画行使

①運営委員会を月2回以上開催し、会議の精選を積極的に行い、会議時間40分以内を目指す。

②管理職は、職員が月1回以上年休取得できるように呼びかけ・調整を行い、全員に取得させる。

100%

代休を複数日、取得したため、年休の取得をしなかった職員が4名いる。

◇達成指標①
⇒総合健康リスク56(前期)
達成率107%

◇達成指標②
⇒4月～11月の平均21.6時間で達成率114%
【2学期中間比－1】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	平均
人数	4	5	2	2	7	2	10	1	4. 6
割合	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

◇達成指標③
⇒肯定的回答(100%)
達成率100%
【2学期中間比±0】

◇達成指標①③
・妥当な指標のため継続する。

◇達成指標②
・2回連続で達成できているので上方修正を行う。

◆取組指標①②
・妥当な指標のため継続する。

A

A

◇達成指標②
・時間外在校等時間 全教職員の月平均22時間以下

学校関係者意見
評価

